

徳島県立鳴門高等学校 全日制課程

1 学校の概要

- ① 生徒数 1037名 (1年生321名, 2年生358名, 3年生358名)
- ② 校訓 誠実 勤勉 質実 剛健
- ③ 環境目標・テーマ

身近なところからエコプロジェクトに取り組み、環境美化を学校から地域へと広めよう

- 1. 節電・ゴミ分別・リサイクルに取り組み実践できる生徒づくり
- 2. 地域とともに学校周辺の環境美化に取り組み、近隣の模範となる学校づくり
- 3. 普段の生活の中で無理なく継続できるリサイクルのマナーを身につけ実践できる、次世代の担い手を育てる学校づくり

2 行動方針

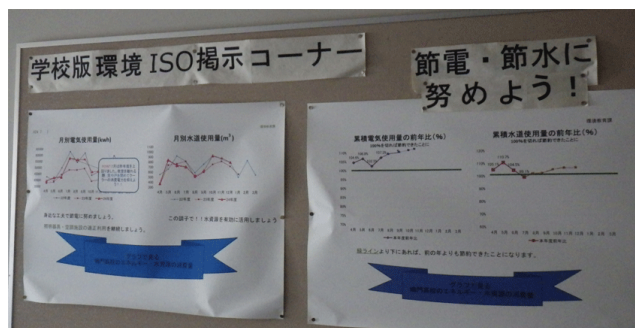
- ① 学校における節電・節水に努める
- ② 学校におけるごみの分別を推進する
- ③ 学校におけるリサイクル活動を推進する

3 行動

- ① 学校における節電・節水の推進



消灯を促すシールの貼付



消費電力・水量のグラフ掲示

- ② 学校におけるごみの分別の推進

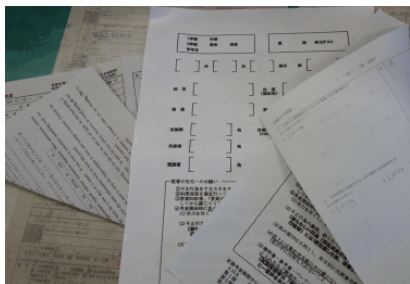


分別を表すゴミ箱の設置



係生徒による清掃時の最終分別

③ 学校におけるリサイクル活動の推進



教員によるプリント再利用



缶・ペットボトルの分別による
リサイクル推進

④ 地域の清掃活動への参加



第1学年による清掃ボランティア活動

ごみゼロ運動（6月）、鳴門署主催環境美化活動（10月）への参加
運動部生徒による通学路清掃

4 具体的効果

- ◆ 節約を呼び掛けるシールや電気・水道使用量のグラフ掲示により、不要な照明・空調の電源OFFや夏の節電意識の高揚に効果があった。
- ◆ 通学路や学校周辺の清掃作業を体験し、多種にわたるごみの飛散状況を知ることで、ポイ捨てなど不適切な投棄の害を理解できた。
- ◆ 生徒がごみの分別に当たることで、実際に最終分別の作業に当たる作業員の方の苦勞の一部を体験でき、分別回収の重要性を理解できた。

5 改善点

- ◆ 昨年度まで実施していたプルタブ回収事業は、必ずしも環境にはよくないということで、空き缶はそのままの形で分別回収することとなった。これに代わるような、生徒主導型の環境保護活動を模索中である。なお、JRCのボランティア活動として、ペットボトルキャップ回収が始まっている。
- ◆ 環境ISO委員会の実施が間に合わず、学年団や環境教育課、生徒指導課主導の参加行事が多かった。計画的に、全校的に活動できるような事前準備が必要である。
- ◆ 以前行っていたオオオニバス観察のように、地域固有の動植物の観察・保護に取り組み、地元や自然に対する関心を高め、長期にわたり地域に向き合う活動を行いたい。